

1991年7月12日

ディケンズ・フェロウシップ日本支部

フェロウシップ・レター 1

異常なお天気がつづき、時候の挨拶に迷うこの頃ですが、会員のみなさまにはお変わりございませんか。さて1991年度の春季大会は、6月15日(土)午後2時から宮城教育大学管理棟3階大会議室で開かれました。梅雨時とはいいながらさわやかな天候にめぐまれ、緑にかこまれた会場に60余名が参集しました。

はじめにまず小池滋新支部長の挨拶があり、次の総会は、来たる10月12日(土)午後1時にバーバラ・ハーディー先生を講師としてお迎えして、東京都港区三田の慶応義塾大学で開かれる予定、との発表がありました。

プログラム第一部のシンポジウムは定刻より5分早くはじまり、荻野昌利氏の絶妙の司会により、原英一、藤田博、小野寺進の3氏はそれぞれが大変興味深い新しい視野に立った発表を、計ったように正確な時間内で行いました。会場との質疑応答も簡にして要を得たものでした。

第二部は司会の増淵正史氏がまず講師を簡単に紹介しました。ハリー・ストーン教授の特別講演「ディケンズとカニバリズム」は期待にたがわぬ洞察と迫りに満ちたもので、会場には非常な緊張感が流れました。なお同講演は、近くアメリカで刊行予定の同教授の著書 *The Night Side of Dickens* の一部をなすものです。

懇親会は、西洋館ならぬ「東洋館」という名前の割烹で行われ、増淵正史氏の司会で和やかに進行了ました。司会者がこの割烹の由緒などを説明したあと、松村昌家副支部長による乾杯、それから各自が自己紹介という形で簡単な近況を述べました。集まった38名の方々はストーン教授夫妻と共に、つぎつぎと出る見事な料理を楽しみながら、歓談しました。

春季大会は以上のごとく成功裡に終わりましたが、この大会のために行き届いたご配慮をくださった宮城教育大学の増淵正史氏および関係の方々に、心からお礼を申し上げます。

*

既報のごとく、「会報」第14号は、例年の通り秋に刊行の予定で、みなさまからの投稿をお待ちしています。原稿を書いてくださる方は、8月8日までに届くようお願いします。400字詰原稿用紙に縦書きとし、5枚以内。ただし大会での発表要旨は、2~3枚をお願いします。送り先は〒180 東京都武蔵野市中町3-29-4 小池滋。(これは支部長のご自宅です。事務局のある東京女子大学英米文学研究室には送らないようご注意ください。大学の夏期休暇中は研究室も閉室の日が多く、郵便物が滞るおそれがありますので。)

また、ここ一年の間に研究書、翻訳等(共著、共訳を含む)をお出しになられた方は、その書名、発行年月、出版社名をぜひお知らせ下さい。この場合も、小池滋支部長宛にお願いします。

*

前回のお知らせのあと、さらに会員の異動や住所変更がありました。お手もとの名簿をお直してください。(会員全員の名簿は、「会報」14号の巻末に載せます。)

牧島秀之 〒157 東京都世田谷区喜多見 4-34-3 コーポミヤ 105
03-3749-1040 青山学院大学大学院 新入会

間山 伸 〒350-02 埼玉県坂戸市溝端町 9-4-107
0492-81-1262 日本大学大学院 新入会

宇佐見太市 近畿大学(教養部) 関西大学(文学部)
田中孝信 大谷女子大学 大阪市立大学

*

The Dickensian のロンドンからの到着がたいふう遅れておりましたが、このほど no.423 (Vo1.87 Part1) が届いたのでお送りします。これは1991年度の3冊のうちの第1冊目にあたります。

〒167 東京都杉並区善福寺 2-6-1
東京女子大学英米文学研究室内 03-3395-1211(代)
ディケンズフェロウシップ日本支部